

名 称	那須教育事務所生涯学習ボランティアセンター
所 在 地	〒324-0056 栃木県大田原市中央1-9-9
連 絡 先	TEL : 0287-23-2177 FAX : 0287-23-2193

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 那須塩原市 約115,000人

那須塩原市は、栃木県の北部に位置し、平成17年1月1日に旧西那須野町・旧黒磯市・旧塩原町の1市2町が合併して生まれた新しい市である。市の面積の半分は、那須火山帯に属した湯量豊富な塩原温泉郷や板室温泉郷、三斗小屋温泉をはじめ、塩原溪谷や沼ッ原湿原を代表とした観光の名所となる自然豊かな山岳部が占めている。

残りの半分は、北側を那珂川、南側を箒川に挟まれた緩やかな扇状地で、JR東北新幹線と東北本線の那須塩原、黒磯、西那須野の各駅周辺と国道4号及び国道400号沿いに市街地が形成されている。特に西那須野地区は、明治13年以降の原野の開拓と那須疏水の整備を契機に、水の乏しい原野を潤し発展の礎となる。その開拓を記念し、毎年4月に開墾記念祭が行われ、市内の各小学校から代表が式典に参加している。

また、伝統文化として、那須野ヶ原疏水太鼓、黒磯巻狩太鼓、塩原平家獅子舞、上塩原古代獅子舞、関谷の城鉞舞など、30以上の伝統文化が地域で傳承されている地区である。

事業の名称、活動概要

名称 自然体験塾

子どもの体験活動の不足や外遊び機会の減少などを危惧し、地域のボランティアが昔の遊びやその文化を伝えながら、「地域の子どもをみんなで育てよう」という趣旨で活動を開始した。5月・7月・9月・12月の年4回、毎回「つくる」「あそぶ」「たべる」の3つをテーマに、篠鉄砲・ゴム鉄砲・竹とんぼ・コースター・紙飛行機などを作ったり、中高生とダンスやゲームと一緒に遊んだり、昔の雑炊・古代米おにぎり・流しそうめん・かき氷などを食べたりして体験活動を継続している。

事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

本塾は、青少年の健全育成に心血を注いだ初代塾長の十有余年にわたる構想をもとに、平成14年度の学校週5日制の導入を機に活動を始める。「地域の子どもたちをみんなで育てよう」という熱い思いに賛同した旧西那須野町青少年問題協議会地区推進員を中心としたボランティアスタッフ16名でスタートした。昔の遊び道具などのもの作りを通して、親と子どもが触れ合う時間を提供するとともに、中高年齢者の指導による昔遊びや、中高生が創作したダンスやゲームと一緒に楽しむ異世代間交流により、豊かな人間性を育む手助けをすることをねらいとして実施している。

また、初代塾長から那須教育事務所生涯学習ボランティアセンターへの依頼があり、協働で実施している。具体的には、旧西那須野町がもつジュニアリーダーズクラブ（高校生ボランティア）と自然体験や交流体験の機会とをコーディネートし、その後活動を定期的に支援している。

ねらいは、子どもたちの健全育成と、自然体験塾を巣立った子どもたちが、何年か後にはボランティアスタッフとして後輩を指導するような仕組みづくりをするためである。

事業の内容

① 事前準備として行った取組（企画段階）

那須教育事務所生涯学習ボランティアセンターと那須塩原市生涯学習課とが連携し、那須塩原ジュニアリーダーズクラブ（高校生ボランティア）の募集を行うため、一緒に高等学校へ行き、担当者に会って直接お願いをした。

また、自然体験塾の代表者との打合せを毎回約1か月前に行い、連絡調整を図った。

② 活動の展開内容（活動段階）

- ① 那須塩原市教育委員会生涯学習課と連携し、那須塩原ジュニアリーダーズクラブの組織編成時に那須教育事務所生涯学習ボランティアセンター職員が「ボランティアとしての心構え」の研修を実施し、ボランティアとしての基礎知識の習得を図る。
- ② 那須塩原市教育委員会生涯学習課と連携し、那須塩原ジュニアリーダーズクラブの定例会時に那須教育事務所生涯学習ボランティアセンター職員が「レクリエーションの指導法」の研修を実施し、ボランティアとしての基礎技術の習得を図る。
- ③ 那須塩原市の社会教育施設の主催事業やイベントにおいて、実際に高校生ボランティアの活動を支援する。
- ④ 那須塩原ジュニアリーダーズクラブの定例会時に、高校生ボランティアとともに幼児や児童に指導するゲームの企画をする。
- ⑤ 那須塩原ジュニアリーダーズクラブの定例会時に、高校生ボランティアとともにゲ

ームの準備を行い、予行練習を支援する。

- ⑥ ボランティアへの活動支援として、那須教育事務所生涯学習ボランティアセンター職員が、高校生ボランティアに対して上手に幼児や児童に指導できるよう助言する。

③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

那須教育事務所生涯学習ボランティアセンターは、個人や団体、学校や地域などと体験活動や交流体験とを結ぶコーディネーターなので、個人や団体、学校や地域が主体的に活動できるよう支援することが大切である。そのためには、日ごろから市町教育委員会、団体、ボランティア、学校等への訪問を重ね、コミュニケーションを密にしておくことが最大のポイントである。

事業の成果と今後の課題

高校生ボランティアは、ボランティアとしての知識や技術の習得が早く、回を増すごとにたくましくなっていた。初めは、指示を出さないとなかなか動くことができなかった高校生ボランティアも、活動の企画・運営に初めから参画し、幼児や児童に指導する体験をすることで達成感や満足感及び自信が得られ、活動意欲につながっていた。

また参加者も、すぐにボランティアに頼ってしまう親と子が目立ったが、回を重ねるたびに自主的に活動する親と子の姿が多くなってきた。

今後は、更に多くの高校生にボランティア活動の参加を促すとともに、自然体験塾を巣立った高校生たちが、数年後には地元のボランティアスタッフとして後輩を指導できるような地域づくりの仕組みが確立できるよう支援していきたい。そして、当センターにおいては、ボランティアに関する事例や情報、ノウハウを蓄積し、更に質の高い支援を心掛けるとともに、新しい団体や分野を開拓して新たな協働を生み出すことが必要であろう。



説明をする高校生ボランティア



丸太切りの様子①



丸太切りの様子②



紙飛行機を飛ばす様子



コースターへ絵を描く小学生



かき氷をつくる様子

執筆者職・氏名：那須教育事務所ふれあい学習課副主幹 田崎 真

コーディネーターからの一言コメント

高校生をボランティアスタッフとして育て、一緒に体験塾を運営している点がとても良い。これにより高校生ボランティアが自分たちで企画・運営し、輪を広げていければ申し分ない。児童の参加拡大も取り組んでみると良い。

(橋本 洋光)